

# 「よるべなさ」再考

フロイトにおける生物学主義の展開と転回

佐藤朋子 (UTCP)

# ヴィクトル・ユゴーの作品に おける意識と無意識

数森寛子 (UTCP)

2010年6月8日(火曜日) 18:00-20:00

東京大学駒場キャンパス 101号館研修室

使用言語：日本語

入場無料，事前予約不要

UTCPでは所属若手研究者による講演会を順次開催いたします。題して「UTCP 研究員による研究発表+議論シリーズ」です。第1回目は中期教育プログラム「精神分析と欲望のエステティクス」に所属しているふたり、佐藤朋子さんと数森寛子さんに研究発表をお願いしました。

佐藤さんの専門は精神分析史・精神病理学史・現代フランス思想。近著に論文「Langues, enfant, langue maternelle. Brève réflexion à partir du *Verbiere de l'Homme aux loups* de N. Abraham et M. Torok», in *Bilinguisme et psychopathologie*, (dir. Mareike Wolf-Fédida), Paris, MJW Fédition, 2010, p. 139-154. があります。数森さんの専門は19世紀フランス文学・ヴィクトル・ユゴーの作品研究・文学と精神分析。近著に論文「Les Misérables et la révolution», 『日本フランス語フランス文学会関東支部論集』第16号、2007年、117-130ページ。 があります。